だから、（クルアーンの）意味が紛らわしい部分に従う者たちを見たら、それらの者たちこそがアッラーが言っている者たちである。彼らに気をつけよ。

アーイシャ（アッラーのご満悦あれ）は言った： アッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）はこのアーヤ（節）を読んだ：「かれは、この啓典（クルアーン）をあなたに下されたお方。その中には、啓典の母である明確なアーヤと、（それとは）別の紛らわしいアーヤがある。心に歪みがある者たちは（人々の）誘惑を望み、（好き勝手な）解釈を求めて、意味が紛らわしい部分に従うのだ。アッラーと、”私たちはこれ（クルアーン）を信じた。（これは）全て我らが主の御許からのものである”と言う、知識が深く根ざした者たちの外、その（真の）解釈を知るものはないというのに。澄んだ知性の持ち主以外、教訓を受けることはないのだ。」（クルアーン３：７）アッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）は言った：「だから、（クルアーンの）意味が紛らわしい部分に従う者たちを見たら、それらの者たちこそがアッラーが言っている者たちである。彼らに気をつけよ。」 [صحيح] [متفق عليه]

アッラーの使徒（アッラーからの祝福と平安あれ）はこのアーヤ（節）を読んだ：「かれは、この啓典（クルアーン）をあなたに下されたお方。その中には、啓典の母である明確なアーヤと、（それとは）別の紛らわしいアーヤがある。心に歪みがある者たちは（人々の）誘惑を望み、（好き勝手な）解釈を求めて、意味が紛らわしい部分に従うのだ。アッラーと、”私たちはこれ（クルアーン）を信じた。（これは）全て我らが主の御許からのものである”と言う、知識が深く根ざした者たちの外、その（真の）解釈を知るものはないというのに。澄んだ知性の持ち主以外、教訓を受けることはないのだ。」（クルアーン３：７）このアーヤの中でアッラーは、以下のことを伝えている：アッラーがその預言者にクルアーンを下したお方であること。その中には意味が明らかで、その規定も明白で疑念の余地もないアーヤがあるが、それが啓典の母であり、立ち返るべき典拠であり、相違点があった際の根拠である。他方、クルアーンの中には複数の意味に解釈できるものもあり、ある種の人々にとってその意味が分かりにくいようなものもある。アッラーはこれらのアーヤに関する人々の対応の仕方を説明し、心が真理から逸れている者たちは疑念を生じさせ、人々を迷わせることを望み、自分たちの私欲に応じた形に解釈するために、明確なアーヤではなく意味が紛らわしく見えるアーヤに依拠する、としている。一方で確固とした知識を持つ者たちは、このような紛らわしく見えるアーヤがあればそれを明確なアーヤによって判断し、それを信じ、それがアッラーの御許からのものであること、そこに何の疑念も矛盾もないことを信じるのである。しかしそのような熟考を得るのは、健全な理性を備えた者たちだけである。それから預言者（アッラーからの祝福と平安あれ）は信仰者たちの母アーイシャ（アッラーのご満悦あれ）に、こう言ったのである：だから、（クルアーンの）意味が紛らわしい部分に従う者たちを見たら、それらの者たちこそがアッラーが言っている者たちである。彼らに気をつけ、彼らの言うことを聞くのではない。

http://sunnah.global/hadeeth/ja/show/65062